

福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 11 月 21 日
東京電力株式会社

<1. 原子炉および原子炉格納容器の状況> (11/21 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度	
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.0 m ³ /h	28.4	106.6 kPa abs	A系： 0.24	vol %
		給水系：約 2.3 m ³ /h			B系： 0.27	vol %
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 4.1 m ³ /h	41.0	5.32 kPa g	A系： 0.07	vol %
		給水系：約 1.8 m ³ /h			B系： 0.07	vol %
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 4.0 m ³ /h	41.0	0.23 kPa g	A系： 0.19	vol %
		給水系：約 1.9 m ³ /h			B系： 0.18	vol %

絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

【1号機】・11/20 18:27 原子炉への注水量の低下が確認されたため、給水系からの注水量を約 2.2m³/hから約 2.5m³/hに調整。炉心スプレイ系からの注水量は約 2.0m³/hで継続。

<2. 使用済燃料プールの状況> (11/21 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	17.5
2号機	循環冷却システム	運転中	15.4
3号機	循環冷却システム	運転中	15.0
4号機	循環冷却システム	運転中	25

*各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルへヒドラジンの注入を適宜実施。

<3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況>

号機	排出元 →	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	→ 3号機タービン建屋	11/18 10:06 ~ 11/21 9:25 移送実施

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (11/21 7:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	停止中	停止中	停止中	水バランスをみて 断続運転	水バランスをみて 断続運転

・H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

・H24/11/20 8:00 頃、パトロール中の当社社員が、集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物減容処理建屋[高温焼却炉建屋])から屋外に出ている第二セシウム吸着装置(サリー)のベント配管*から、水が漏えい(鉛筆太さ程度)していることを発見。そのため、8:26 頃、第二セシウム吸着装置(サリー)の運転を停止。漏えいした水は屋外のコンクリート上に溜まっている状態で、10:10 にベント配管からの水の漏えいの停止を確認。漏えいした範囲は約 16m×約 11m×深さ1mm 程度で、漏えい量は約 176 リットルであることを確認。漏れた水の放射能濃度の分析結果は、以下のとおり。

セシウム 134: 3.7×10^2 Bq/cm³, セシウム 137: 6.5×10^2 Bq/cm³, コバルト 60: 3.5×10^0 Bq/cm³
マンガン 54: 1.9×10^0 Bq/cm³, 漏えい水の放射エネルギー:約 1.8×10^8 Bq

漏えいした水は屋外のコンクリート上に溜まっている状態で、付近には側溝がないことから海への流出はないものと判断しているが、念のため、漏えい拡大防止のための土嚢を設置。また、漏れた水は、拭き取りにより回収した。今後、漏えいした原因について調査する予定。なお、淡水化处理した水は十分にあることから、原子炉注水への影響はない。また、本事象によるモニタリングポストの値に有意な変動はなく、プラントへの影響も確認されていない。

※第二セシウム吸着装置(サリー)の吸着塔から空気を高温焼却炉建屋の外側に抜く配管

H24/11/20 11:13 第二セシウム吸着装置(サリー)のベント配管からの水の漏えいに伴い、運転していた淡水化装置(逆浸透膜)3のスキッド1およびスキッド2を停止。

<5. その他>

- ・H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5、6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。
- ・H24/2/23～ 6号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- ・H24/3/6～ 5号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- ・H24/4/25～ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。
- ・H24/10/23～ 1号機サプレッションチェンバ内への窒素ガス連続封入を開始。サプレッションチェンバ内の水素濃度を推定2%程度まで低くするために、連続封入期間は1ヶ月程度を予定。
- ・H24/11/21 9:47 6号機補機海水系ストレーナ切替弁修理に伴い、使用済燃料プール冷却系を停止(停止時プール水温度:18.8℃)し、残留熱除去系による原子炉停止時冷却運転(原子炉側の冷却)と非常時熱負荷運転(使用済燃料プール側の冷却)を交互に切り替えて冷却する運用を開始。ただし、11/21～11/23の間は、原子炉停止時冷却系の切り替え操作(A系からB系)を行うことから、非常時熱負荷運転は11/23以降開始予定。
なお、使用済燃料プールの冷却を3日程度停止しても、冷却停止時のプール水温度の上昇率は、約0.2℃/hで、停止中のプール水温度上昇は約11℃であることから、保安規定に定める運転上の制限値65℃に対して余裕があり、使用済燃料プール水温管理上の問題はなし。

以上